

保護者の皆様へ

座間市立西中学校  
校長 牧野 淳志

## 令和3年度 学校評価アンケート結果について(報告)

陽春の候、保護者の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

先日は、今年度学校評価に係る保護者アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。このたび、保護者アンケート及び生徒アンケートの結果をまとめましたのでお知らせいたします。

今後、成果が見られた項目はより一層向上するように、また、課題があった項目は少しでも改善できるよう取り組んでまいりますので、保護者の皆様にも、様々な場面で、是非ご協力いただきたくお願いいたします。

なお、アンケートの結果は、裏面に記載しています。

## I 保護者アンケートの結果より考察

## 令和3年度の成果(アンケートの結果が特によかった項目)

## ＜指導に関する質問＞

1 「学校は、あいさつの励行や時間・服装のけじめなど、基本的な生活習慣が身につくよう適切に指導している」の質問について、肯定的回答が95.7%(前年度比+1.5%)、特に「あてはまる」の回答が48.0%と半数に近い値でした。この項目は、昨年より好結果が継続しており、全体的に定着してきている様子が伺えます。これは、PTA・地域の方と一緒に実施している『あいさつ運動』をはじめ、生徒会のあいさつ、時間厳守、身だしなみ等への取り組みの成果であると考えられます。

3 「学校は、行事(修学旅行・体育祭・文化祭等)や体験活動を通して、連帯感や達成感を味わわせ、生徒の生きる力を育てよう努めている。」の質問について、肯定的回答が96.8%(前年度比+2.0%)と95パーセントを上回っており、「あてはまる」の回答も53.8%(前年比+4.2%)と半数以上を占めています。これは、コロナ禍の中でも、生徒の活動の場をできる限り確保しようと、制約が多い中でも工夫しながら行事を行った取り組みと、生徒が行事の意義を理解し、主体的に取り組んだ成果であると思われれます。

## ＜学校の対応に関する質問＞

5 「学校は、保護者の子どもについての連絡や相談に対して、適切に対応している。」の質問について、肯定的回答が93.4%(前年比+4.2%)と高い評価であり、「あてはまる」の回答も45.2%と高い値でした。コロナ等で個々の生徒への寄り添った指導が必要な状況の中、ご家庭と協力して対応してきた成果だと思われれます。また、いち早くchromebookによる授業配信やオンライン授業に取り組んだ成果とも考えられます。

## ＜家庭から見る子どもの様子に関する質問＞

10 「お子様は、社会性や規範意識が高まっている。」の質問には、80.6%(前年比+9.9%)が肯定的な回答をしており、肯定的回答は90%に満たないものの、増加率ではこの質問がNO.1でした。これは、質問1,2ともリンクしており、学校の課題を克服するために、ご家庭の協力のもと、生徒の意識が向上していった成果だと思われれます。

## 令和3年度の課題(今後重点的に取り組みが必要だと思われる項目)

## ＜家庭から見る子どもの様子に関する質問＞

7 「お子様は、楽しく学校生活を送っている。」の質問について、「あてはまる」の回答が48.9%(前年比-4.1%)で、肯定的回答だと87.6%(前年比-2.4%)でした。生徒への質問では、「あてはまる」の回答が57.5%(前年比+3.3%)の高い値で、肯定的回答だと90.0%(前年比+2.7%)した。これを見ると大多数の生徒は学校生活を楽しいと感じていますが、約1割の生徒はそう感じておらず、不安や不満を抱えていることが読み取れます。「あてはまる」の回答が増加していることも併せて考えると、学校生活の充足度合の二極化は解消されておらず、引き続きの課題であると考えます。学校生活の充実、自己有用感を育む大前提です。この1割が少しでも減少するよう、家庭や小学校とも連携した継続した取り組みが必要であると考えます。

- 8 「お子様は、家庭学習に前向きに取り組んでいる。」の質問の肯定的回答率は、75.1%(前年比-7.2%)です。生徒が、主体的に学びに取り組めるよう、小学校や家庭とも連携した取り組みが必要です。また、生徒の肯定的回答は67.5%(前年比+10.7%)で、伸び率は高いものの、更に伸ばしたい項目です。

## II 生徒アンケートの結果より考察

### 令和3年度の成果

#### <生活に関する質問>

- 2 「挨拶や礼儀正しい言葉遣いができる。」の質問には、94.2%(前年比+2.8%)が肯定的な回答をしています。保護者質問1とも関連しますが、生徒の意識の醸成とともに、保護者や地域の方と連携した取り組みの成果が表れていると思われます。しかし、挨拶や言葉遣いに関しては、まだまだ改善の余地が多くあります。元気な声で進んであいさつをすることが習慣化し、TPOに応じた適切な言葉遣いができるよう指導していきたいと思えます。
- 3 「ルールやきまりを守っている。」の質問について、肯定的回答が、97.7%(前年度比+1.2%)と全質問中最高値であり、「当てはまる」は74.7%(前年比+4.7%)あります。これは、生徒の意識が着実に改善されつつあることを顕著に表していると思われます。規範意識の育成は、社会に出るまでに必ず身に付けなければならない重要な事柄であり、今後もしっかり取り組みたいと思えます。
- 4 「係・委員会、行事での役割、清掃活動、部活動内での役割など、任されたことに責任を持って取り組んでいる。」の質問について、肯定的回答が、96.1%(前年度比+1.1%)、「当てはまる」は71.6%(前年比+4.4%)でした。本校では、昨年度まで「自己有用感の向上」の研究を続け、学級、授業、行事、防災活動などに取り組んできましたが、その取り組みが、責任感の高揚にも繋がったのではないかと考えられます。責任感を持って活動し、それが評価されることで自己有用感が高まります。それが自信を持って主体的に行動できることに繋がっていくと考えられます。

#### <授業・学習に関する質問>

- 7 「授業に意欲を持って取り組んでいる。」の質問への、肯定的回答は、90.8%(前年比+3.3%)でした。学校が落ち着き、授業に集中できる環境が整ったことも大きく反映していると思われます。また、教員も、ICT(chromebook等)を利用した効果的な学習方法などを模索し、生徒の意欲を引き出せるよう授業法の工夫・改善に取り組んできた成果でもあると思えます。

### 令和3年度の課題

#### <授業・学習に関する質問>

- 8 「授業の内容は理解できる。」の質問について、肯定的回答が89.3%(前年比+2.9%)と、改善傾向にあり、およそ9割の生徒は授業内容を理解していると回答していますが、いまだ1割以上の生徒が授業理解ができていないとの自覚があるようです。今後も、授業方法の更なる工夫、学び合い活動などによる学習活動の深化、補習等の充実などに取り組んでいきたいと思えます。
- 10 「考えたことや思っていることをみんなの前で話せる。」の質問に対して、32.7%(前年度比-3.5%)が否定的な回答をしています。昨年より改善しているものの、いまだ十分とは言えません。chromebookの利用が進むと、授業中に「書き込む」機会は増加するものの、「話す」機会が減少する恐れもあり、授業や学級活動の中で、自分の意見をしっかりと伝えられるよう取り組む必要があります。
- 5 「学校生活の中で自分が活躍できる場面がある。」の質問について、肯定的回答が81.3%(前年比+3.2%)
- 13 「目標や将来の夢を持って生活している。」の質問について、肯定的回答が73.7%(前年比-0.2%)
- 14 「自分には良いところがある。」の質問について、肯定的回答が74.8%(前年比+0.8%)
- これらの質問は、自己有用感に関する質問であり、昨年度までの本校の研究テーマでした。数年前までの結果からは大きく向上しているものの、学習状況調査(生徒質問)の結果等も含めてやや頭打ちの感があります。
- 生徒の自己有用感向上のためには、中学校での継続した取り組みも必須ですが、家庭や小学校とも連携した取り組みを模索する必要があると考えられます。